



no.5

少し前の話になりますが、5月に3歳半健診がありました。そのちょうど1年前、2歳半健診の時、発達においてグレーゾーンと言われた息子。T市では、3歳半健診でないと判定がつかないと言われ、不安な気持ちでコスモスを訪れたあの時から早いもので1年が経っていました。名前を呼んでも振り向かない、目が合わないこの子が療育とコスモス並びに保育園の先生方の関わりのおかげで、自分が自分であることに気づき、私やお姉ちゃんとキャッキョと遊べるようにまでなってきました。指差しも出てきているし、言葉も少し出てきている、何より自分の意思を表現できるようになりました。生活面でも靴をはく、トイレに行ける、座って食べることもできるようになってきている。出来ることが増えてきている。でも内心では、健診で何と言われるのか不安でたまりませんでした。というのも予診としての目や耳の検査を家でやっても全くだきない…仕方ないとは思いつながら記入できない用紙を提出しなければならない状態。(今から考えると、私の悪いところでまだまだ他の子と比べているところがあったのでしょね)。

そして、その日はやってきました。健診センターの前に車を止めると不安そうな表情で泣きだした息子。「今日は健診なの。お母さん、ずっと一緒だから大丈夫だよ。」と抱きしめて話をしました。わかってほしいという気持ちを込めて…。かろうじて車から抱っこしておろしたものの、部屋に入ったとたん五本指で玄関を指さし、うーうーと叫び出しました。抱っこしている私の腕から何度も逃れようと体をよじらせたり、のけぞったり…。健診が終わるまでの2時間半、泣き続ける息子を抱っこしながら「大丈夫、大丈夫だよ」と何度唱えたことでしょう。

全てが終わり、最後に心理判定士の方と別室で話をしました。息子の様子を見ながらできること、できない事のチェック。そして、判定された息子の知能は指数にすると35ギリギリ。重度～中度といわれました。愛護手帳や福祉面での話をしてくださいましたが、正直、私にはその記憶が全くありません。とにかく、この場で泣いてはいけない、息子に涙を見せてはいけないと奥歯をかみしめて面談を終えました。車に戻り、ホッとして水を飲む息子の頭をなでながら「いっばいがんばったね。えらかったよ。」と言いました。とたん、涙があふれてきました。その夜、主人に話しながら大泣きました。この子に未来などないような気分になりました。

翌日、どん底に落ち込む私は園長室に向かいました。ひろ子先生になぐさめてほしかったし、優しい言葉をかけてほしかった。そんなひろ子先生が言った言葉は、「何今さら落ち込んでいるの。今の時点で言葉が出ていないのだから、重度と言われるのは当たり前。言葉が早いとか遅いとか、そんなことじゃないでしょ。この一年、私の話の何を聞いてきたの！ホントにもう、落ち込んでいる暇があるなら、もっと勉強なさい！！！！」

想定外の返答に、一瞬驚きましたが、何故だが心がストンとおさまった気がしました。私は息子を「かわいいそうな子」と心のどこかで思っていた事に気づかされました。息子は彼自身が自分を「かわいいそう」だなんて少しも思っていない…。息子を「かわいいそうな子」に育てているのはむしろ私なんだ。この子の生まれ持った力いっばい生きられるようにしてあげたい。それが私のできる事なんだ。

1年前、ひろ子先生に面談で言われた言葉「……小学校で普通学級に入れるかどうかとか、そんな目先のことでこの子を私は育てません。この子が10年後、20年後の姿を考えて私はこの子を育てます……」その言葉の意味がやっとわかった愚かな私でした。目先の評価や他の子と比べてできるとかできないとか、息子を本当に「かわいいそうな子」に育て上げるところでした。くれよんで、ひろ子先生がよく話すことがあるのですが、「私たちはこの子たちより早く死んでいくの。だから、今生きる力をつけさせてあげないといけない。人は一人では生きてはいけない。弱さや不自由があろうがなかろうが、他人の世話になり、他人と関わって生きていくの。仮に最終的に施設で暮らすにしても、必ず親以外の他人の手を借りて生きていかなくてはならない。その時に大切な事は素直であること(私なりの解釈では人の話を聞けることと思っています。)、仲間と過ごす上で我慢ができることなの。そうすれば、どこに行っても人にかわいがられ、楽しく暮らすことができるのよ。」今でも忘れられない言葉です。落ち込む私にもっと

勉強なさいという言葉の意味。それは、流行の育児、教育情報に流されることなく、多くの情報の中から本物をかぎ分ける力、感性、つまりは母親力を磨きなさいということと、私は自分の言葉でおきかえて考えています。

言葉、言葉、言葉がでてほしいと表面的なところにばかり重点を置いていた私。言葉は心、その心をコスモスで先生方と共に育てている途中。まだまだ先は長く、始まったばかり。焦らず、この子と一緒に成長していこうと気持ちを新たにしました出来事でした。

余談ですが、コスモスのママ友に健診のことを泣く泣く話したところ、「何言ってるの。みんなそうやって健診の度に落ち込んだりしてんのよ。そんな落ち込んでいるひまがあったら、今この子にできることをやってあげるしかないでしょ!!!」とひろ子先生同様励まして??いただきました。こりない私は、コスモス室長にも泣きついたところ、「他の人が何と言おうと、私や先生方みんなが〇〇くんがこの一年間でとても成長したのを知っています。何より一番成長を感じているのはお母さんでしょう。それでいいのではないのでしょうか。でも今後も〇〇くんの成長の過程を知ることなく、その時の判断で、そういった判定もあるということ、そういう社会の目もあるということを覚悟しないといけないかもしれませんね」と優しく話してくださいました。

——その後、8月の出来事なのですが、白湯の時間に息子がお友達に「どうぞ」と言って湯のみを渡したと担任の先生から聞くことができました。その場に合った心からの言葉が言えたことが何より嬉しく思いました。「どうぞ」って何て素敵な言葉なんだろうと改めて感じました。